

# 教育長室だより

第 9 号

2018.2.04

新しい年の第1号です。遅くなりましたが本年もどうぞよろしく願いいたします。

あるクイズに出ていた問題です。「節分は年に何回あるでしょう。」答えは4回。もともと節分は「季節を分ける」という意味ですから春夏秋冬の4回あったわけです。

立春の前日が今日言う節分ですが、一年でも最も寒い時期でもあります。

今、日本中でインフルエンザが猛威を振るっています。対策として「できることはすべてする」ようにしたいものです。

○

3学期前半は寒さとの戦いの時期ですが、後半ともなると1年の総まとめ、締めくくりの時期でもあります。

子どもさんの居るご家庭では、子どもさんの背丈の伸びは実感しておられるでしょうか。毎日顔を合わせていると意外に気づきにくいかもしれません。そこで、1年前頃の写真があればぜひ見直してみしてほしいと思います。

おそらく子どもさんの顔の変化に気づかれると思います。たった一年前でもその顔の幼さにおもわず笑みが漏れると思います。

○

顔の変化は脳の変化です。脳の成長を顔の表情が表現しているとも言えます。われわれ大人と違って、子どもは日々成長しています。体より何より脳が成長しています。当たり前のことですが、この成長のしている脳にどんな刺激が与えられるかが子どもの成長、つまり人間形成を大きく左右します。

○

“脳への好ましい刺激”にはいろいろな要素が必要です。

「日常の良い生活習慣」や「学校の勉強内容」を身につけていく土台になるものとして大事な脳への刺激がたくさんありますね。

○

その1

これからの世の中で重要になると言われるのが“人と関わる力”。その元になるのは人と交わり、心を通わせる経験です。まずは家族と…です。このとき愛されているという感覚を持てることはとても重要です。人と人との関係をつくる力は近い未来のAI時代を生きる最も重要な能力の一つだといわれています。

## その2

自然の不思議さや魅力を感じる力は学びの芽生えとなるもので、やはり自然の中での体験を豊かに持つことで経験できます。これは心を豊かに育てるという意味でも重要です。その意味では、「絵を見る、描く」や「音楽を聴く、聴いて体を動かす」なども心を豊かにする脳への良い刺激だと言われます。

## その3

頭で考える力の元になるのは言葉の力です。言葉の力は「聞く」「話す」経験のほかに「読む」経験が欠かせません。書かれたものは“音”の要素がないので言葉だけで理解するしかありませんから、言葉だけで伝わるように書かれています。意味を理解する力、いわゆる読解力は学力に直結する力です。

これに「書く」経験が加わると鬼に金棒です。

身の回りの様々なモノを使って遊ぶこと、ものを作ること、絵を描くことなども考える力を育てる上で有効です。

## その4

体の成長に影響する運動の習慣。これも脳への刺激です。運動して気持ちが良いと感じるのは脳のはたらきです。健康な体は健康な心を保つためにも大事で、良い運動習慣と食生活の習慣が必要です。

## その5

そのほかにも脳への好ましい刺激には「ほめられること」「うまく叱ってもらうこと」などが考えられます。



脳はいつも良い刺激をほしがっています。ほめられたときや何かを達成したときには脳の中に報酬物質であるドーパミンが分泌されることはよく知られています。

成長期の脳には特にこれが大事です。そして最終的に自尊心、自己肯定感を持つ、つまり自分に自信を持つ子どもになればどんなことにも前向きに向かっていく人になるはずです。



一年のまとめの話から子育て論のようになってしまいましたが、上に書いたような脳がほしがるとしてすべてのものを与えることは難しいです。その1からその4まで、よく考えれば学校でやっていることと重なっています。

ご家庭では決して気にしすぎる必要は無く、とにかく1年間の子どもさんの顔の変化に、人としての成長を感じ取ってあげてください。この1年でどのように成長したのか、あるいはどのような心配が増したのか、子どもさんを見守る大人たちで話し合っしてほしいと思います。